

カガヤキ

県立図書館普及課
石井敬之

暫定的補足表題「ウオラントス」
ラテン語でボランティアの意

No.60(2022.2.15刊行)、広報委員会編集
県立図書館発行
禁複写転載©広報委員会

通信紙の三本柱

広報グループ

茨城県立図書館ボランティア通信紙は、
これまで、主に、

- ・各グループ年次報告(No.25, 39, 43, 49, 56)、
- ・ボランティア論(ボランティアに関わる体験・提案・助言など)(No.26, 27, 30, 34, 36, 40, 55, 59)、
- ・ボランティアに関わる調査・考察(No.52 など)、

などの記事を掲載してきた。

文章書く場合、「独創論」「論理構成論」「文章論」「表現論」の四大要素については、初期に定めた、80点以上のレベルに達している。そのため、これまで構築してきた方法論を遵守すれば、レベルの高い通信紙が、継続できるものと確信する。

令和3年度は、昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症が図書館のボランティアサービスにも多大な影響を与えた。また、カフェ整備工事も重なり、休館時期が数ヶ月に及び、その間の活動が停止したことも影響した。その中で、7月のカフェオープンとともに、ボランティア活動も再開する運びとなり、担当者として安心した。

また、今年度は積極的に新規ボランティアの募集をかけたところ、予想以上の応募があり、2022年1月10日時点で、今年度の新規ボランティアは、13人となっている。1月10日現在で、ボランティアの総数は、108人となり、今まで、活動がなかった「視聴覚資料ボランティア」も4名となりました。また、様々なスキルを有するボランティアの方や学生や現職世代の若いボランティアの方も加わり、活動の幅が広がった。

しかし、安心はできない。現在のボランティア活動における課題は、県立図書館に限らず、ボランティアの高齢化と継続率の低下である。限られた方が、長年ボランティアに尽力しており、新しい担い手が育たない現状がある。技術やスキルの継承がボランティアを存続する上で、必要不可欠である。新規ボランティアの方には、ボランティア活動を継続していただき、この問題の解決に、一役、

買っていただきたい。そのためには、我々職員が、ボランティア活動の魅力が伝わるように、ボランティアの各位の声に耳を傾け、できる限りのサポートをする体制やサービスの向上に努めなければならない。ボランティアという無償のサービスを提供していただくには、私達も誠意をもって対応する必要がある。

現在、ボランティア分野は、10分野あり、それぞれの分野で専門的な技術やスキルを活かして、活動している。先日、「いばらき読書フェスティバル」に合わせて、活動内容を紹介する展示をさせて頂いた。活動内容を展示するにあたり、各分野の委員長に、活動内容に関するアンケートを行い、回答のあった内容を中心に紹介させていただいた。私も、活動内容をまとめるにあたり、各委員長に話を聞き、また、新規ボランティアの皆さんへの面接などを通じ、各ボランティア分野の担当職員と話すことで、今まで知らなかった活動内容などを知り、ボランティアの皆さんの貢献がなければ、図書館サービスが成立しないということを改めて学んだ。ある分野の担当職員は、ボランティアの皆さんの活動のおかげで、通常業務の負担が大きく軽減したと報告した。また、職員のスキルでは、難しい業務をボランティアの皆さんのおかげで遂行できたこと、ボランティアの皆さんから職員への技術の継承など、図書館サービスの充実に様々な形で貢献している。これからも、ボランティアの皆さんからエネルギーをいただき、より一層、県民サービスの向上に努めるとともに、ボランティアの皆さんの健康とご多幸を

祈念し、ご挨拶に代えさせて頂きたい。

「説教」と「法話」の共通点と相違点

宗教研究者(曹洞宗雲水)

桜井 淳

はじめに

宗教学における「説教」(sermon)とは、キリスト教の教会において、神父(カトリック系における聖職者の呼び名)ないし牧師(プロテスタント系における聖職者の呼び名)が、『聖書』(holy bible)の一説を深く考察し、日曜礼拝の際に、信者に向かって、語りかけることであり、それに対し、「法話」(sermon)とは、菩提寺において、住職が、檀家信者が参加する祈祷会などにおいて、本堂で、正式な読経を終了した後、社務所で、お茶を飲みながら和菓子を頬張る檀家信者に向かって、語りかけることである。

両者の共通点と相違点

両者の共通点は、きわめて高度なテーマであるものの、そのことを表に出さず、語り手の人格と話法により、信者の年齢や社会認識にかかわらず、誰でも理解できる表現により、信者が、もっと一般的に言えば、人間が、歩むべき道を示すことである。表現が、日常生活から乖離し、難解であってはならない。

両者の相違点は、「説教」が、99%のまじめな話と1%の逸脱話であるのに対し、

「法話」は、1%のまじめな話と99%の逸脱話からなる。「説教」では、話す内容の品位を守り、間違っても、俗世界のことを面白おかしく語ってはならないのに対し、「法話」では、日常生活や国内外の出来事を初め、あらゆる話題を採り挙げ、その結果、品位も下げ、面白おかしく語りかけ、それでも、最後に、人間に必要な教訓じみたことが、頭に何かひとつ残るようにすることである。

流行作家であった瀬戸内晴美は、不倫を三回も重ねた後、どのような心境に達したのか、ちょうど50歳の時、天台宗中尊寺で出家した。僧名は瀬戸内寂聴。寂聴の「法話」には、全国から老若男女が集まり、寺の境内には、毎回、3000人にも達していた。話の内容は、99%が「不倫」や「品のない世間話」であり、それでも、皆、耳を傾け、真剣に聞き入っており、いつ語られるか分からない1%の新たな教訓じみた話に期待しているのである(寂聴の著書には「法話」の全文が収録されている)。

「法話」で、数十人も集められる住職や僧侶は、珍しく、それどころか、数百人を超え、数千人台となると、奇蹟的であり、寂聴は、それを実現しており、たとえるならば、「菩薩」を超え、「如来」に到達していたに違いない(2021.11.7、99歳で逝去、著書400冊)。

曹洞宗雲水としての修行

私は、63歳になって、水戸市にある鎌倉時代から700年くらい続く、格式高い曹洞宗円通禅寺で出家した。「雲水」とは、

僧侶の謙遜語であり、永遠に、雲が流れ、水が流れる如く、修行に励むことを意味する。

出家の理由は、別に、人生の迷路に迷ったわけではなく、ことの成り行きに任せ、単純に、58歳から、東大大学院総合文化研究科で、5年間、「哲学」と「社会学」の研究を経て、その研究成果を学術書『科学技術社会論序説』(論創社、2015)としてまとめ、つぎに、人生最後の学問として、63歳から、東大大学院人文社会系研究科で、5年間、「中世ユダヤ思想」(「聖書解釈学」含む)の研究のみならず、「比較宗教学」(ユダヤ教、ヒンドゥ教、キリスト教、仏教、イスラーム)と「宗教社会学」(宗教と社会のかかわり)の研究まで幅を広げ、最初に意図したことは、

- ・フィールドワークとして実施、
 - ・東大の「宗教学」と現場の相互比較、
 - ・曹洞宗禅寺修行(読経、法話、作務)、
 - ・曹洞宗大本山永平寺修行(読経、法話、作務、「永平」とは、曹洞宗創作者の道元が中国に留学した頃の元号であり、自身の氏名や大本山名や大本山のある町名に使われた)、
 - ・東日本大震災津波被災地巡礼(仙台、名取、多賀城、東松島、石巻、気仙沼、陸前高田、釜石、宮古)、
 - ・国内外巡礼登頂登山(下記登山名参照、著書『世界百峰巡礼登頂(論創社、2018、Kindle版、amazon発売中)、『写真集 世界百峰巡礼登頂』(写真1400枚、編集済み、刊行準備中))、
 - ・国内外千寺院巡礼(著書『世界千寺院巡礼』、編集中)、
- であり、登山では、スイスとヒマラヤで、

数回、死ぬような体験をした。ヒマラヤでは、高山病の一種である肺水腫(肺に水がたまり、その量が多くなると死亡)にかかり、帰国直後に、茨城県メディカルセンターで実施した検診の際、医師から、「無事に帰れたことが奇蹟的」と告げられた(詳細は著書に記載)。

国内登頂(男体山、高山、前白根山、白根山、谷川岳(夏山1回、雪山1回)、八方尾根(夏山2回)、乗鞍岳、北横岳(夏山1回、雪山1回)、北岳、槍ヶ岳、西穂高(雪山1回)、奥穂高岳、北穂高岳、加波山、鳴虫山、半月山、社山、黒檜山、山王帽子山、蓼科山(雪山1回)、立山、黒部溪谷、雲竜溪谷、館岸山(3回)、焼額山(夏山1回、雪山1回)、奥久慈男体山(2回)、筑波山、茶臼岳、黒斑山(雪山1回)、富士山(雪山1回)、裏磐梯(雪山3回)、磐梯山(夏山2回)、安達太良山)。

国内縦走登頂(愛宕山・団子山・大福山・難台山・吾国山(16回)、御嶽山・雨引山・燕山・加波山・足尾山・筑波山(2回)、志賀山・裏志賀山・横手山、寺子屋山・裏寺子屋山・岩菅山、横手山・鉢山・赤石山、十二ヶ岳・節刀ヶ岳・鬼ヶ岳、薬師岳・夕日岳・地藏岳・行者岳、金精山・五色山・坐禅山・白根山・前白根山、山王帽子山・太郎山、半月山・社山・黒檜岳、赤薙山・女峰山・小真名子山・大真名子山・男体山、硫黄岳・横岳・赤岳、白馬岳・小蓮華山・白馬乗鞍岳、上高地・涸沢・北穂高岳・屏風ノ耳、高根山・寝姿山)。

海外登頂(アイガー(ミッテルレギー稜)とマッターホルン(ヘルンリ稜)とエギーユ・デュ・ミディ(途中までの調査登山済み)、以下、4000-6000m級、メンヒ、ユングフラ

ウ、ブライトホルン、モンブラン、スندانピーク、チュクングリー、カラパタール(5545m頂上から直下約200mに、エベレストBCが見える)、メラピーク)。

なお、世界8000m級14座のチョー・オユヤK2やエベレストなど、2022年1月現在、未登頂)。



グリンデルワルト村から見たアイガー北壁

結びに代えて

私は、出家とは、「己を殺し、他を生かす」ことと悟った。

仏教の本質は、「般若経」(600冊、その276文字のダイジェスト版が「般若心経」)に記載された「色即是空」(色とは、仏教用語で物質を意味し、全体の意味は、「この世は、何もない空のような世界であるが、そのことを認識し、永遠に、精進せよ」)である。

私は、雲水として、まだまだ、初心者であり、道半ばでしかなく、トラック競技にたとえるならば、第一コーナーあたりを走っているにすぎない(著書37冊)。

これから本格的な修行となる。トラック競技と異なる点は、ゴールは、無限のかたにあることである(目標著書50冊)。

編集後記

広報グループ

茨城県立図書館ボランティアの継続年数は、5-10年であり、少数ですが、10年以上の経験者も存在しています(No.52)。

私は、一時中断していた通信紙の再発行(No.25以降)が軌道に乗ったならば、役割は、終了したと考え、できるだけ早い時期に、辞めようと決心していました。しかし、イメージした通信紙の内容にならなかったこともあり、もう1年、もう1年と続き、不覚にも7年が経過してしまいました。3年を経過した頃から、委員長の交代を意識し、積極的に、人選してきましたが、いまだに見つかっていません。

私が、過去、7年間に意図したことのひとつは、社会科学研究の方法を基に、ボランティア集団の活動メカニズム分析から、一般的な「ボラティア特性」を見出すことでした(No.52など)。

7年間に意図したことのもうひとつは、次世代のボランティアを育成するために、「ボランティア論」(何も特別なことではなく、ボランティアの「体験談」「感想」「反省」「推奨」など、ボランティア発展のため、世の中に、言い残しておくべきことのまとめ)の展開でした(No.26, 27, 30, 34, 36, 40, 55, 59)。いずれも質の高い内容であり、今後のためのレールを敷くことができました。

私の体験からすれば、世の中では、1990年代初めには、ワープロ、その後、OSとしてWINDOW'S 95を搭載したPCが普

及したため、そのような経緯からして、世の中では、E-メールやWORDの機能を利用し、自由自在に、文章を書くことが可能となり、理想的な文章に修正できるようになりました。

私は、「日本経済新聞」を購読しており、文化欄には、エッセー、私の履歴書、交遊抄、小説が掲載されており、特に、作家のエッセーの表現は、巧みであり、文章の四大要素の「独創論」「論理構成論」「文章論」「表現論」を満たしており、キラキラと輝いています。お手本的存在です。